

2017年度（平成29年度）以降の 調達価格及び調達期間について

調達価格と調達期間について、2月10日締切でパブリックコメントが募集されていました。示された案（主なものは以下）のようになっています。

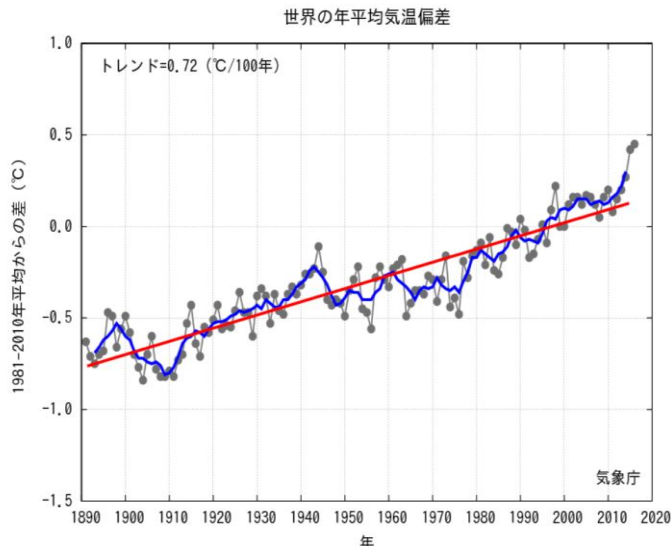
	調達期間	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
太陽光10kW未満、余剰、出力制御なし	10年間	42	38	37	33	31	28	26	24
太陽光10kW未満、余剰、出力制御あり※	10年間				35	33	30	28	26
太陽光10kW以上、全量	20年間	40+税	36+税	32+税	29+税	24+税	21+税	2000kW以上は入札	
陸上風力 20kW以上	20年間	←		22+税	→		21+税	20+税	19+税
〃 20kW未満	20年間	←				55+税	→		
洋上風力	20年間	←				36+税	→		
地熱 15000kW以上	15年間	←				26+税	→		
小水力 新設 200kW未満	20年間	←				34+税	→		
小水力 既設導水路活用 200kW未満	20年間	←				25+税	→		
木質バイオマス 2000kW未満	20年間	←		(32+税)	→	←	40+税	→	

(kWh/円)

※出力制御の対象は、北海道、東北、北陸、中国、四国、九州、沖縄の各電力会社

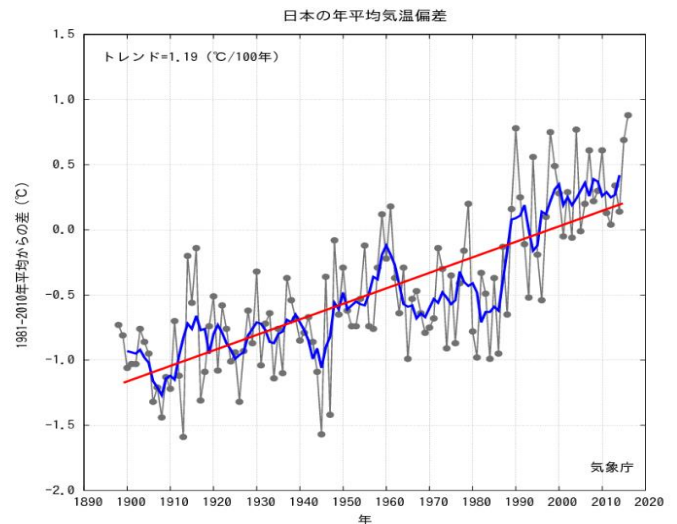
世界の年平均気温が3年連続最高値を更新 日本は1898年の統計開始以来、最も高い値。

(気象庁2月1日発表)



細線(黒):各年の平均気温の基準値からの偏差、太線(青):偏差の5年移動平均、直線(赤):長期的な変化傾向。基準値は1981~2010年の30年平均値。

2016年の世界の年平均気温偏差（1981~2010年の30年平均値を基準値とし、平均気温から基準値を差し引いた値）は+0.45°Cで、統計を開始した1891年以降では最も高い値となり（これまでは2015年の+0.42°C）、3年連続で最高値を更新した。世界の年平均気温は、長期的には100年あたり0.72°Cの割合で上昇しており、特に1990年代半ば以降、高温となる年が多くなっている。



細線(黒):各年の平均気温の基準値からの偏差、太線(青):偏差の5年移動平均、直線(赤):長期的な変化傾向。基準値は1981~2010年の30年平均値。

2016年の日本の年平均気温の1981~2010年平均基準における偏差は+0.88°C（20世紀平均基準における偏差は+1.48°C）で、1898年の統計開始以降、最も高い値となった。日本の年平均気温は、長期的には100年あたり約1.19°Cの割合で上昇しており、特に1990年代以降、高温となる年が頻出している。